

文型中心からの 脱出を目指して

古賀 さと子

福岡国際学院

『みんなの日本語』 → 『できる日本語』

2015年4月～

【理由】

「教科書の日本語」と「実際に使われている日本語」が違っている。

日本語が上手になった実感がない。

最初は・・・

「できる日本語」を使っているとしても、考え方は「みんなの日本語」を使っていた時と変わらず「**文型中心**」のままだった。



2017年に再度研修をし直して再スタート！

取り組み① 年に2回勉強会の実施

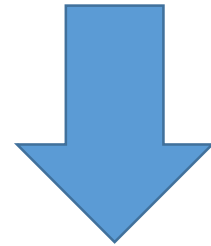
【目的】 コンセプトの理解
実践の共有

取り組み② 毎月1回 クラス会

各課のゴールを共有
「できる」の活動について相談

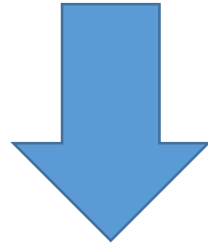
教師の変容

- ①「できる」の活動を「クラス会」で考えることにより、「課のゴール」を共有。



「課の**ゴール**」「授業の**ゴール**」を以前より意識して授業をするようになった

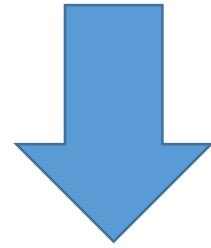
共有した「課の**ゴール**」に向かって
前日の授業→今日の授業→翌日の授業
とつながっている。



一緒に授業を
作っている感覚

「点」から「線」へ

②「できる」の活動、「課外活動」の内容
の変化。



「活動」の目的を念頭において
いかにして学生を日本語を使う状況
に置くかを考えるようになった。

学生の変容

- ① 授業で知った情報などをもとに実際に体験してみたり、出かけてみたりすることが以前より多くなった。
- ② 分からなくても話そうとする姿勢が以前より見られるようになった。

- ③ 以前に比べまとまりで話せるようになった。
- ④ 発表をするとき、原稿を「読む」のではなく、キーワードだけ見て自分で文を組み立てて話せるようになってきた。

組織の変容

- ① 「個人」から「チーム」へ
- ② 「教室」から「外」へ
地域の公民館
小学校 中学校 高校

小学校との交流授業（2015～）

小学校のカリキュラムの中に当校との交流授業を組み込んでもらっている。

2015～2016

2017～2018

単発の交流 → 「できる」の発表・感想文交換 →

2019～

複数回の授業（全3回のフィールドワーク）

- 小学生側の変化
交流前は「知らない」＝「怖い」
→楽しい！もっと仲良くなりたい。知りたい！
- 教師間の対話が増え信頼関係ができてきた。
- A小学校では1学年1クラス。6年間クラスメイトが変わらず人間関係が固定化している。外国人と接することにより刺激になる。多様な人がいると知るいい教育機会となっている。

おそうじ交流会（ゴミ清掃ボランティア）

外国人のゴミ捨てのマナーの悪さが地域で問題。



2019年4月から地域の方と一緒にボランティアでゴミ清掃をすることに。

課題

まだなかなか変容が見られない教師、学生もいる。

もっと全体的に教師が進化できるように、「コンセプトの理解」「対話のしやすい環境づくり」等をしていきたい。